科目名	実践基盤看護学臨地教育実習Ⅱ Practice foundation Nursing Educational Practice Ⅱ	担当教員 (研究室番号)	未定 灘波　浩子（204） 鈴木　聡美（103）	教員への連絡方法 (メールアドレス)	未定: 灘波:hiroko.namba@mcn.ac.jp 鈴木:satomi.suzuki@mcn.ac.jp

履修年次	2年次 前期	科目区分	専門科目	選択区分	コース必修	単位数(時間)	3(90)	授業形態	実習	科目等履修生	否
										遠隔授業	否

科目目的	学部教育における、4年生を対象とした実践基盤看護学分野の実習指導を行うことにより、看護の現場における教育指導能力の修得を目指す。	
ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(DP)	主要なDP	６．看護実践の場における看護専門職者や看護学生に対する教育能力を修得している。
	関連するDP	１．多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉え、看護の特定領域における高度な看護実践能力や総合的な調整能力を身につけている。
到達目標	1. 同行する実習を履修する学生のレディネスを知ることができる。 2. 同行する実習のカリキュラム上の位置づけや、教育目的・教育目標・評価方法を知ることができる。 3. 同行する実習を実施する医療機関の特徴、特に実習病棟の入院患者や看護・医療の特徴を把握することができる。 4. 実習環境とは何かを理解し、その具体的調整方法を知ることができる。 5. 学生の看護実践や実習記録等について教育的活動を実践することができる。 6. 実践した教育活動を振り返り、看護における教育観の醸成につなげることができる。	

成績評価方法(基準)	実習内容、臨地実習指導記録簿、臨地教育実習報告書、学生への対応等を総合的に評価する。
教科書	必要時、紹介する。
参考書等	必要時、紹介する。
受講者へのメッセージ	最終学年における実習の指導を行うことにより、学生のレディネスをふまえて指導することの重要性を学ぶと共に、新人看護師としての能力を予測的に把握し、今後の現任教育に活かして下さい。
備考	教育実践上、看護学原論、基礎看護方法Ⅰ、基礎看護方法Ⅱ、基礎看護方法Ⅲ、基礎看護方法Ⅳ、看護管理学の学習内容の知識が必要となる。

学　習　内　容

【実習期間】
同行する実習は、学部4年生が履修する「看護総合実習」とする。
3週間の実習のうち、自身の指導計画に合わせ臨地指導を行う。

【学内実習】
学生便覧、シラバス及び実習要項から同行する実習について学習する。また、実習オリエンテーションに参加し、実習についての理解を深める。
さらに、可能な限り教員が学内で実施する実習に関する会議に出席し、実習運営の全体像を学ぶ。実習前には、同行する実習が行われる病棟で研修を行い、学習環境を把握する。
また、基礎看護方法Ⅲの全ての授業に参加し、学生指導を行うことで学生が臨地において展開する看護過程への理解を深める。

【臨地指導実習】
学生が立てた実習目標に沿い、患者との援助関係の構築、看護過程の展開、安全・安楽・自立を促進するケアの実施が円滑に行われるよう、教育的関わりを行う。
*最終提出して評価された実習記録を確認し、学生の学習過程について理解を深める。

【教育指導実践に関する記録類】
臨地教育実習における実践について、毎日「臨地実習指導記録簿」に記載し、担当教員に提出する。また、実習終了後には指導の総括を行い、記録にまとめる。